

「空き家を貸したい・売りたい」「地域で移住者を受け入れたい」など

空き家の活用、移住に関する相談はこちらへ

彦根市空き家バンク & 小江戸ひこね町屋情報バンク

空き家の所有者と新しい住まい手をマッチングさせる、お見合いの仲人のような役割を担っています。不動産業者をはじめ、たくさんのプロフェッショナルたちがサポートします。

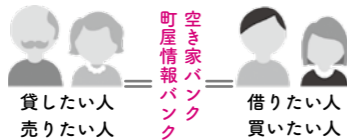
①彦根市空き家バンク

市内の空き家全般（住居物件）が対象です。

②小江戸ひこね町屋情報バンク

町屋や古民家（昭和20年以前の物件）が対象です。

問【①②共通】 ☎ 23-2123（10：00～18：00）



物件募集中！

「彦根市空き家バンク」で空き家を活用しませんか？ まずはご相談ください。



◀ ホームページに掲載中の募集物件

人と人との縁を結んでいます

「空き家の利活用で持続可能な地域をつくりたい」という思いから、彦根市空き家バンクは誕生しました。地域に眠る空き家を掘り起こし、空き家が増えることによって起こる防犯上・景観上などの問題を解決することを目的としています。

人と人との縁を結ぶことで、居住環境の充実や新たなコミュニティの形成だけでなく、「歴史・文化・学術・湖畔のまち」彦根の魅力を向上させていけるのではと考えています。



移住コンシェルジュ

- ▶彦根市への移住・Uターンを検討している人に、移住情報や彦根暮らしの魅力に関する情報などを提供します。
- ▶移住者を受け入れたい地域と移住希望者をつなぐ「地域のご案内・交流」のコーディネートなどを行っています。

問 企画課 ☎ 30-6101

✉ ijusokushin@ma.city.hikone.shiga.jp



移住コンシェルジュ
小林 由季（地域おこし協力隊）

移住者を受け入れて地域を活性化！

移住コンシェルジュは、彦根市への移住を検討している人へ、彦根での暮らしの魅力や情報発信、移住相談を行っています。不安なく地域に入れるよう、地域のご案内や交流のサポートをしています。そうした中で、移住相談を受けて「空き家はありますか？」と尋ねられることが多いです。「古民家に住んでみたい」「お店を始めたいので物件を探している」という声も多く、問い合わせがあれば彦根市空き家バンクさんにお繋ぎしています。空き家バンクさんと連携し、空き家の情報を提供していただいたり、「空き家見学ツアー」を開催して移住希望者とのマッチングを図ったりしています。彦根は古い建物が多く残っているので、古民家をはじめ空き家を活用したいという需要は多いと思います。移住者の受け入れについてなど、ぜひ一度ご相談ください！

彦根市空き家対策総合支援事業補助金

市では、市内にある空き家を、滞在体験施設、交流施設、体験学習施設、創作活動施設、文化施設などに改修等をして地域のために活用しようとする団体に、改修等工事に要する費用の一部を補助しています。

令和元年度からは、特定非営利活動法人「善利

組まちづくりネット」がこの事業を利用し、「芹橋まちや活性化プロジェクト」として、古民家をマルシェや地域サロンからなる「善利組R12」に改修し、地域を盛り上げるために活用しています。

問 建築住宅課 ☎ 30-6123 FAX 24-8517



▲「leather works ze-key」の店内工房と店舗が隣接している様子は圧巻

北川 ここを保存・継承していくためには、森さんの言うとおり、観光客を増やすことが必要です。そのためには、住人一人ひとりが愛着を持って、この場所の良さを再認識することが大切です。良さが再認識できれば、もっと環境を良くしようと思ってもらえると思いますし、それが観光客の増加にもつながり、ひい

みんなが愛着を持って住みよい街にしたい

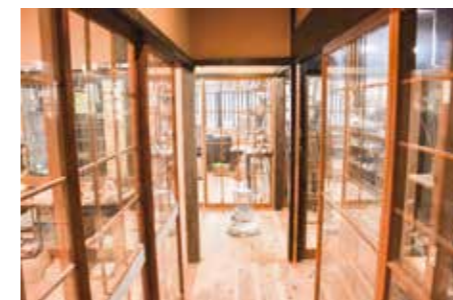
森 「四番町スクエアまでは分かるけれど、こちらのエリアまで入って来て良いのか分からない」というお客さんが多く、店舗まで入って来てもらうのが課題だと思っています。彦根の観光を考えたときも彦根城だけではもったいないと思います。

北川 空き家問題をなくすには、地域のコミュニティも大切ですが、住人同士が互いに風通しを良くするかを考える必要があり。現役世代は、なかなか地域の活動に参加することも難しいのが現状です。

大管 足軽屋敷が32件も残っている地域は他に例を見ません。世界遺産登録のためにも、ここを観光資源として活用していきたいですね。



▲「Luonto352」の店内オリジナルテキスタイルの発見も楽しい



▲店内はガラスの戸で仕切られているため、店舗同士の回遊が可能



▲かわいい雑貨が並ぶ店内

大管 子どもたちにとって「ここが故郷だ」と思ってもらえるような街にしたいと思っています。そうすることで将来、若い人も帰ってきてくれて、空き家問題の解決にもつながると思います。

コラム

たくさんの空き家

問 建築住宅課 ☎ 30-6123 FAX 24-8517

現在、市内には、約1,700件もの空き家が存在しています。危険なものもありますが、少しの改修で利活用可能なものもたくさんあります。空き家バンクを通じて新たな家主に巡り合うものや、リノベーションして地域の核となる施設として生まれ変わったものもあります。

このように資源にもなる空き家ですが、適切に管理をしないと老朽化してしまい、いざ利活用しようとした時に使えなくなってしまいます。所有者の人は、まずはしっかり管理して活用を考えてみてください。市や空き家バンク（5ページ参照）に相談いただければ、一緒に活用方法を考えることもできます。

